

授業科目		統計学		単位／時間		1／30時間	
開講学科等		看護学科		担当教員		有瀬 豊	
授業の目的・テーマ		現場で必要とされる役に立つ統計と、統計を道具として使えることを理解できる。					
授業の到達目標		現場で必要とされる役に立つ統計を学び、統計を道具として使えることを目標とする。					
授業の計画	1	オリエンテーション	26	母平均の推定			
	2	基礎知識	27	復習②			
	3	データの種類と性質	28	復習②			
	4	母集団と標本, 変数・確率	29	まとめ			
	5	度数分布・ヒストグラム	30	試験			
	6	度数分布・ヒストグラム	31				
	7	分布の代表値・散布度	32				
	8	分布の代表値・散布度	33				
	9	正規分布	34				
	10	t分布, χ^2 分布, F分布	35				
	11	検定	36				
	12	検定の一般的手順	37				
	13	検定手法の選択	38				
	14	母平均の差の検定(t検定)	39				
	15	母平均の差の検定(ウェルチの検定)	40				
	16	母平均の差の検定(対応のあるt検定)	41				
	17	復習①	42				
	18	復習①	43				
	19	クロス表による検定(χ^2 検定)	44				
	20	簡便法, イエーツの補正	45				
	21	マン・ホイットニーのU検定	46				
	22	マン・ホイットニーのU検定	47				
	23	ウィルコクソンの符号付順位和検定	48				
	24	ウィルコクソンの符号付順位和検定	49				
	25	推定	50				
授業の方法		講義					
テキスト/参考文献							
評価の方法や基準		筆記試験等総合評価					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		特になし					

授業科目	人間関係論		単位／時間	1／30時間
開講学科等	看護学科		担当教員	槇本 宏子
授業の目的・テーマ	身近な人間関係及び看護における人間関係の基礎を学び、臨床で活用する人間関係構築の技術を学びその方法を考える。			
授業の到達目標	臨床で活用可能な人間関係論の基礎と技術を習得する。			
授業の計画	1	人間関係とは、人間関係の捉え方	26	事例を通してのグループ討議 模擬カンファレンス
	2	自分自身への問い クラスメートとの関係性	27	〃
	3	自己紹介（表現・自分のことをどう相手に伝えるか）	28	相手にわかりやすい申し送りとは（事例検討）
	4	アイスブレイキング・対話的關係の展開（条件付きコミュニケーション）	29	〃
	5	対人関係と役割 ①対人関係の成立・維持・崩壊	30	試験
	6	対人関係と役割②葛藤・対処・社会的役割	31	
	7		32	
	8	コミュニケーションとは 対人コミュニケーションの構成要素と成立過程	33	
	9	ロールプレイング：言語的コミュニケーション	34	
	10	ロールプレイング：非言語的コミュニケーション	35	
	11	口頭と書面によるコミュニケーション（プレゼンテーション）	36	
	12	カウンセリング技法と心理療法	37	
	13	コーチングとアサーティブコミュニケーション	38	
	14	保健医療チームの人間関係	39	
	15	チームワークとエラー	40	
	16	コミュニケーションエラーとその予防	41	
	17	多職種との連携	42	
	18	患者を支える人間関係①患者―医療者関係	43	
	19	②患者・看護師間の総合評価	44	
	20	③様々な看護場面による人間関係	45	
	21	家族を支える人間関係①家族関係論	46	
	22	②家族看護の展開・家族と患者の看護	47	
	23	地域をつくる人間関係	48	
	24	グループ討議（リーダーシップ）	49	
	25	グループ討議（個人・集団での問題解決の進め方）	50	
授業の方法	講義と体験学習、レポート			
テキスト/参考文献	人間関係論（医学書院）、基礎看護技術Ⅰ（医学書院）			
評価の方法や基準	定期考査の得点・レポート評価・体験学習の評価・出席状況・授業態度重視する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				

実務経験の 活かし方	
履修上の 注意事項	「評価の方法や基準」欄を参照すること。

授業科目	社会学	単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	佐藤 洋子
授業の目的・テーマ	社会と社会の中で起こるさまざまな事象の成り立ちや在り方を学ぶことで、少子高齢社会の環境が抱える問題を捉え、看護の中で考慮すべき視点を持つことができる。		
授業の到達目標	社会と社会の中で起こるさまざまな事象の成り立ちや在り方が分かる。 少子高齢社会の環境が抱える問題を捉える。		
授業の計画	1	社会学の基礎概念	26
	2	社会学的視点とモデル	27
	3	保健医療と社会学	28
	4	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方	29
	5	健康・病気の社会格差	30
	6	「働き方」「働かせ方」と健康・病気	31
	7	健康・病気行動と病経験	32
	8	患者-医療関係者とコミュニケーション	33
	9	保健医療の専門職	34
	10	性・ジェンダー・家族と保険医療	35
	11	地域社会と保健医療	36
	12	保健医療制度	37
	13	保健医療の現代的变化の位相	38
	14	ケアと医療	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	社会学（医学書院）		
評価の方法や基準	総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	レクリエーション法	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	森岡 由紀
授業の目的・テーマ	1 音楽・音楽療法の特性を理解する。 2 音楽・音楽療法の持つ生理的・心理的・社会的作用を自ら体験し、将来的に介護の現場で役立つ技法を習得する。		
授業の到達目標	上記「授業の目的・テーマ」の欄を参照のこと。		
授業の計画	1	音楽療法 総論 実際のセッション	26
	2	音楽活動・音楽体験について	27
	3	音楽演奏体験 計画	28
	4	音楽演奏体験 実施	29
	5	概要各論	30
	6	プラン立案	31
	7	同上	32
	8	グループ別模擬セッションA組 高齢者	33
	9	グループ別模擬セッションB組 高齢者	34
	10	グループ別模擬セッションC組 高齢者	35
	11	グループ別模擬セッションD組 高齢者	36
	12	グループ別模擬セッションE組 成人	37
	13	グループ別模擬セッションF組 成人	38
	14	グループ別模擬セッションG組 児童	39
	15	音楽療法まとめ	40
	16	音楽療法まとめ	41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義、実技、ディスカッション		
テキスト/参考文献	音楽療法 美しき日本のうた 日本の歌 101 プラス6 曲		
評価の方法や基準	授業態度 レポート及び実技		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」欄を参照すること。		

授業科目	人間工学	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	出渕 靖志
授業の目的・テーマ	医療事故が生じる心理的要因と、機能的要因を理解し、その対策をたてるために必要な考え方を身につける。		
授業の到達目標	人間の生理学、運動力学などの基本的な仕組みについて、述べることができるようになる。 医療機器設計が医療安全にどのように活用されているか、述べることができるようになる。		
授業の計画	1	人間工学の概要（看護と人間工学）	26
	2	〃	27
	3	人間の仕組みと特性概論	28
	4	〃	29
	5	医療過誤と人間工学	30
	6	〃	31
	7	ヒューマンエラーと人間工学	32
	8	〃	33
	9	人間工学に必要な技法について	34
	10	〃	35
	11	医療機器の開発とユーザビリティ評価について	36
	12	〃	37
	13	人間工学を利用した安全性の向上について	38
	14	〃	39
	15	試験（定期筆記）	40
	16	〃	41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義演習		
テキスト/参考文献	テキスト：臨床工学講座医用機器安全管理学第2版（医歯薬出版株式会社）		
評価の方法や基準	定期試験、出席状況、授業態度等を考慮して総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験	14年		
実務経験の活かし方	臨床現場で必要とされる人間性である、礼儀礼節の重要性を伝えたい。		
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」欄を参照すること。		

授業科目	疾病と治療Ⅳ（血液・造血器疾患、免疫・アレルギー疾患・内分泌・代謝）		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	上村 由樹（血液・造血器疾患）・中山 修一（免疫・アレルギー疾患・内分泌）・大崎史淳（代謝）
授業の目的・テーマ	血液・造血器疾患、免疫アレルギー疾患に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。内分泌・代謝疾患に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。			
授業の到達目標	上記参照			
授業の計画	1	血液の生理と造血のしくみ(第2章) (上村)	26	代謝疾患 糖尿病：治療
	2	検査・診断と症候・病態生理(第3章)	27	代謝疾患 高脂血症
	3	疾患と治療の理解(第4章) 赤血球系の異常	28	〃
	4	〃	29	代謝疾患 肥満、痛風
	5	白血球系の異常 造血器腫瘍	30	試験
	6	〃 治療学としての癌化学療法	31	
	7	〃 造血幹細胞移植	32	
	8	〃 支持療法としての輸血療法	33	
	9	出血性疾患、血小板の異常、凝固系の異常	34	
	10	〃	35	
	11	試験	36	
	12	アレルギー 症状と疾患の理解(第4章) (中山)	37	
	13	膠原病 症状とその病態生理(第4章)	38	
	14	〃	39	
	15	〃	40	
	16	疾患の理解(第4章) 内分泌疾患：視床下部・下垂体	41	
	17	〃	42	
	18	内分泌疾患：甲状腺	43	
	19	〃	44	
	20	内分泌疾患：副甲状腺、副腎	45	
	21	〃	46	
	22	代謝疾患：糖尿病成因、診断、合併症 (大崎)	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	成人看護学〔4〕 血液・造血器、〔6〕 内分泌・代謝、〔11〕 アレルギー （医学書院）／必要に応じて紹介する。			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項				

授業科目	疾病と治療Ⅴ（腎・泌尿器）		単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	大崎 史淳（腎） 高知大医師（泌尿器）
授業の目的・テーマ	排泄に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。			
授業の到達目標	上記「授業の目的・テーマ」欄の内容を目標とする。			
授業の計画	1	第2章 腎疾患 構造と機能（大崎）	26	
	2	第3章 症状と病態生理	27	
	3	第4章 腎疾患 診断と検査、腎疾患治療総論	28	
	4	〃	29	
	5	第5章 腎不全の治療、ネフローゼの治療、糸球体腎炎の治療 腎細胞癌	30	
	6		31	
	7	全身性疾患と腎、その他の腎疾患	32	
	8	〃	33	
	9	第2～5章（高知大医師） 泌尿生殖器疾患 構造と機能、症状と病態生理、診断と検査	34	
	10		35	
	11	尿路・性器の感染症、尿管の通過障害、排尿・畜尿障害、尿路結石症、	36	
	12	尿路・性器の腫瘍、男性不妊症、	37	
	13	男性機能障害、その他	38	
	14		39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院）／必要に応じて紹介する。			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	特になし			

授業科目		単位／時間		1 / 30 時間
疾病と治療Ⅵ（女性生殖器疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患・歯・口腔疾患）		看護学科		毛山 薫（女性生殖器疾患） 坂本 隆一（眼疾患） 奥谷 文乃（耳鼻咽喉疾患） 藤岡 愛（皮膚疾患） 青木 隆道（歯・口腔疾患）
授業の目的・テーマ		女性生殖器と感覚器に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。		
授業の到達目標		女性生殖器と感覚器に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解する。		
授業の計画	1	[9] 第2章（女性生殖器疾患） 女性生殖器の構造と機能（毛山）	26	[15] 第5章 う歯・歯周病（青木）
	2	第5章 子宮筋腫	27	口腔粘膜の疾患・口腔領域の腫瘍
	3	子宮内膜症	28	口腔領域の先天異常および発育異常など
	4	子宮頸がん・子宮体がん	29	特論 口腔ケア
	5	月経異常・更年期障害	30	試験
	6	不妊症・膣炎	31	
	7	[13] 第2章（眼科疾患）眼球のしくみ（坂本）	32	
	8	眼球の機能	33	
	9	第5章 眼瞼・結膜の疾患、角膜の疾患	34	
	10	眼底の疾患、緑内障	35	
	11	第6章 眼科疾患に関連した看護	36	
	12	[14] 第2章（耳鼻咽喉科）耳鼻咽喉の解剖（奥谷）	37	
	13	第5章 外耳の疾患	38	
	14	中耳の疾患	39	
	15	中耳の疾患	40	
	16	内耳の疾患	41	
	17	副鼻腔の疾患	42	
	18	副鼻腔の疾患	43	
	19	咽頭の疾患	44	
	20	[12] 第2章（皮膚科）皮膚の構造と機能（藤岡）	45	
	21	第5章 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹	46	
	22	熱傷	47	
	23	褥瘡	48	
	24	腫瘍 感染症	49	
	25	[15] 第2章（歯口腔器）歯・口腔の構造と機能	50	
授業の方法		講義		
テキスト/参考文献		成人看護学 [9] [12] [13] [14] [15]（医学書院）／必要に応じて紹介する。		
評価の方法や基準		筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項		女性生殖器疾患(6時間)、眼疾患(5時間)、耳鼻咽喉疾患(8時間)、皮膚疾患(5時間)、歯・口腔疾患(6時間)		

授業科目	リハビリテーション論	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	沖田 学
授業の目的・テーマ	リハビリテーション医学について理解し、病気や障害を持ち生活の再構築を行う人への看護につなげる。		
授業の到達目標	リハビリテーションの理念を理解することにより、病気や障害を持つ人々の生活への再構築を目指した看護を考えることができる。		
授業の計画	1	リハビリテーション概論	26
	2	〃	27
	3	病期（経過）別にみるリハビリテーション	28
	4	〃	29
	5	運動器障害とリハビリテーション	30
	6	〃	31
	7	中枢神経系の障害とリハビリテーション	32
	8	〃	33
	9	神経変性疾患の障害とリハビリテーション	34
	10	〃	35
	11	呼吸器・循環器の障害とリハビリテーション	36
	12	〃	37
	13	生活とリハビリテーションと看護	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	リハビリテーション看護（医学書院）		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参		

授業科目	社会保障と社会福祉		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	近藤 多美
授業の目的・テーマ	社会保障、社会福祉と医療・看護について理解できる。			
授業の到達目標	1) 社会保障、社会福祉の理念、目的を理解する。 2) 社会福祉の歴史と法制度、医療保障、介護保障、所得保障を理解する。 3) 社会福祉の分野とサービスについて理解する。 4) 社会福祉と医療・看護について理解する。			
授業の計画	1	第1章 社会保障制度と社会福祉	26	〃
	2	社会保障制度	27	第9章 社会福祉の歴史
	3	〃	28	〃
	4	社会福祉の法制度	29	〃
	5	〃	30	試験
	6	第2章 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	31	
	7		32	
	8	〃	33	
	9	第3章 医療保障	34	
	10	医療保障制度の沿革・構造・体系	35	
	11	健康保険と国民健康保険	36	
	12	老人保健制度・保険診療のしくみ	37	
	13	公費負担医療・国民医療費	38	
	14	第4章 介護保障	39	
	15	〃	40	
	16	第5章 所得保障	41	
	17	所得保障制度のしくみ	42	
	18	年金保障制度	43	
	19	社会手当	44	
	20	労働保険制度	45	
	21	第6章 公的扶助	46	
	22	〃	47	
	23	第7章 社会福祉の分野とサービス	48	
	24	〃	49	
	25	第8章 社会福祉の実践と医療・看護	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉（医学書院）／新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉 憲法（岩波書店）			
評価の方法や基準	レポート/試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参			

授業科目	診療補助技術Ⅰ		単位／時間	1／30時間
開講学科等	看護学科		担当教員	川添 悦子・田村 收代・森本 紗磨美
授業の目的・テーマ	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得できる。			
授業の到達目標	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。			
授業の計画	1	創傷管理技術（第8章） 創傷管理の基礎技術	26	吸入（森本）
	2	創傷処置	27	創部ドレナージ
	3	褥瘡予防（田村）	28	人工呼吸療法（川添）
	4	包帯法	29	試験
	5	症状・生体機能管理技術（第11章）検体検査（川添）	30	〃
	6	検体検査	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	生体情報モニタリング	34	
	10	〃	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	診察・検査・処置の介助技術（第12章） 診察の介助（川添）	39	
	15	診察・処置の介助	40	
	16	検査の介助	41	
	17	〃	42	
	18	呼吸・循環を整える技術（第7章）	43	
	19	酸素吸入療法（酸素療法）	44	
	20	〃	45	
	21	〃	46	
	22	排痰ケア（森本）	47	
	23	〃	48	
	24	持続吸引（胸腔ドレナージ）	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義、技術演習、グループワーク演習等を交えながら楽しい授業を目指す。			
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅱ 臨床外科総論 呼吸器（成人看護学②）皮膚（成人看護学⑫）（医学書院）			
評価の方法や基準	レポート、演習態度、筆記試験・実技試験などを総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、診療補助技術に関する基本的知識を講義する。			
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄を参照すること。			

授業科目	診療補助技術Ⅱ		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	南場 香
授業の目的・テーマ	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得できる。			
授業の到達目標	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。			
授業の計画	1	与薬の技術（第9章）	（南場）	26 心肺蘇生法
	2	与薬の基礎知識		27 //
	3	経口与薬・口腔内与薬		28 止血法
	4	吸入		29 試験
	5	点眼 点鼻		30 //
	6	経皮的与薬 直腸内与薬		31
	7	注射		32
	8	//		33
	9	//		34
	10	//		35
	11	//		36
	12	//		37
	13	//		38
	14	//		39
	15	//		40
	16	//		41
	17	//		42
	18	//		43
	19	//		44
	20	//		45
	21	//		46
	22	//		47
	23	死の看取りの援助（第15章） 死にゆく人と周囲の人々へのケア		48
	24	//		49
	25	救命救急処置技術（赤十字講習 4h）	50	
授業の方法	講義、技術演習、グループワーク演習等を交えながら楽しい授業を目指す。			
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅱ 臨床外科総論 呼吸器（成人看護学②）皮膚（成人看護学⑫）（医学書院）			
評価の方法や基準	レポート、演習態度、筆記試験・実技試験などを総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、診療補助技術に関する基本的知識を講義する。			
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄を参照すること。			

授業科目	臨床判断	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	森本 紗磨美
授業の目的・テーマ	健康状態の解釈や適切な対応ができるよう、「気づき」「解釈」し、実践につながっていく思考過程を行うための基礎的能力が理解できる。		
授業の到達目標	健康状態の解釈や適切な対応ができるよう、「気づき」「解釈」し、実践につながっていく思考過程を行うための基礎的能力を身につける。		
授業の計画	1	臨床判断とは	26
	2	〃	27
	3	臨床判断 4 つのフェーズ	28
	4	〃	29
	5	臨床判断の実践	30
	6	気づき	31
	7	解釈	32
	8	反応	33
	9	省察	34
	10	演習	35
	11	〃	36
	12	〃	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループワーク		
テキスト/参考文献	基礎看護技術 I (医学書院) / 患者教育のポイント (医学書院)		
評価の方法や基準	出席状況 レポート等提出状況 (提出日時厳守)		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、指導技術に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄を参照すること		

授業科目	看護倫理	単位／時間	1／15時間
開講学科等	看護学科	担当教員	宮井 千恵
授業の目的・テーマ	目的：倫理とは何か、看護倫理の重要性を理解し、看護実践において倫理の基本を踏まえた対応ができ、さまざまな倫理的場面に対応できる力を養う。		
授業の到達目標	1. 倫理学の基本的な考え方、倫理とは、倫理を学ぶ必要性を理解する。 2. 生命倫理とは何か、生命倫理理論、生命倫理にともなう看護職の責務について理解する。 3. 看護倫理および実践上の概念を学び、看護倫理を踏まえた看護実践とは何かを理解する。 4. 倫理と看護専門職に関する法令を学びその関係性を理解する。 5. 医療・看護をめぐる倫理的問題や倫理ジレンマの解決にどう取り組むかを学ぶ。 6. 看護研究の倫理について理解する。		
授業の計画	1	倫理学の基本的な考え方、倫理・倫理学、倫理理論について	
	2	生命倫理について	
	3	看護倫理の原則と看護職の責務	
	4	専門職に求められる倫理（1）	
	5	グループワーク【事例】	
	6	専門職に求められる倫理（2）	
	7	グループワーク【事例】	
	8	医療をめぐる倫理的諸課題（1）	
	9	医療をめぐる倫理的諸課題（2）	
	10	看護実践における倫理問題への取り組み	
	11	看護実践における倫理的問題へのアプローチ	
	12	看護研究における倫理	
	13	グループワーク【事例】	
	14	倫理的課題に取り組むしくみ	
	15	試験	
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
授業の方法	講義　グループワーク		
テキスト/参考文献	看護倫理, 系統看護学講座別巻, 宮坂道夫他, 医学書院、看護者の基本的責務, 手島恵監修, 日本看護協会出版会　／ケアを深める看護倫理の事例検討, 杉谷藤子他, 日本看護協会出版会、ナースが学ぶ患者の権利講座, 隈本邦彦著, 日本看護協会出版会		
評価の方法や基準	出席状況　筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場における看護業務及び看護管理		
実務経験の活かし方	看護業務及び看護管理に携わった経験を持つ教員が、看護倫理の基礎に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	テキストと筆記用具を持参		

授業科目	成人看護方法論Ⅳ		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	藤田 愛・岡本 容子・ 小笠原 美千代・竹内 初衣
授業の目的・テーマ	緩和を必要とする時期・終末期にある患者およびその家族について、心身への理解を深めるとともに、全人的苦痛を緩和し、その人らしさを尊重した生活を送ることができる看護について学ぶ。さらに患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について学ぶ。			
授業の到達目標	緩和を必要とする時期・終末期にある患者およびその家族について、心身への理解を深めるとともに、全人的苦痛を緩和し、その人らしさを尊重した生活を送ることができる看護について理解する。さらに患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について理解する。			
授業の計画	1	緩和ケア概論（1章）がん患者が抱える苦痛とQOL	↑26	がん治療に伴う苦痛の緩和（小笠原）
	2	緩和ケアとは	27	〃
	3	緩和ケアを患者・家族に提供する方法	28	リンパ浮腫の治療と看護（乳がん患者）（小笠原）
	4	緩和ケアの歴史と海外における緩和ケアの現状	29	〃
	5	日本における緩和ケアの現状	30	試験
	6	緩和ケアにおける看護師の役割	31	
	7	スピリチュアルケア（5章）（藤田）	32	
	8	緩和ケアと生命倫理（10章）	↓33	
	9	社会的ケア（4章）（竹内）	34	
	10	意思決定とコミュニケーション（6章）	35	
	11	〃	36	
	12	家族ケア（9章）	37	
	13	〃	↓38	
	14	身体症状とその治療・看護（岡本）	39	
	15	身体症状概論	40	
	16	疼痛の治療と看護	41	
	17	〃	42	
	18	全身倦怠感の治療と看護	43	
	19	〃	44	
	20	消化器症状の治療と看護	45	
	21	〃	46	
	22	呼吸困難患者の治療と看護	47	
	23	〃	48	
	24	抑うつ患者の治療と看護	49	
	25	せん妄患者の治療と看護	↓50	
授業の方法	講義 演習			
テキスト/参考文献	ナーシング・グラフィカ 緩和ケア（メディカ出版）／必要に応じて紹介する。			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護援助[緩和・終末期]に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	特になし。			

授業科目	老年看護方法論Ⅱ	単位／時間	1／30時間
開講学科等	看護学科	担当教員	高芝 潤・鈴木 梢
授業の目的・テーマ	老年期にある対象者の状況に応じた日常生活の援助を学ぶ。		
授業の到達目標	老年期にある対象者の状況に応じた日常生活の援助を理解する。		
授業の計画	1	日常生活を支える基本動作と看護ケア 5章 (鈴木)	26 関節可動域・筋力増強訓練の適応と原則
	2	基本動作・姿勢・ADLの評価指標	27 片麻痺におけるADLの訓練と介助方法
	3	転倒アセスメントと看護ケア	28 脊髄レベルに対応したADL訓練と介助方法
	4	廃用症候群のアセスメントと看護ケア	29 試験
	5	食事と看護ケア	30 //
	6	//	31
	7	排泄と看護ケア	32
	8	//	33
	9	//	34
	10	清潔と看護ケア	35
	11	//	36
	12	//	37
	13	生活リズムと看護ケア	38
	14	//	39
	15	コミュニケーションと看護ケア	40
	16	//	41
	17	治療を必要とす高齢者の看護 7章	42
	18	//	43
	19	エンドオブライフケア 8章	44
	20	生活・療養の場における看護 9章	45
	21	//	46
	22	高齢者のリスクマネジメント 10章	47
	23	日常生活動作の観察、徒手筋力検査法 (高芝)	48
	24	四肢の形状、運動、姿勢、歩行の正常性	49
	25	機能障害の程度と原因	50
授業の方法	講義・演習 リハビリテーション看護6時間 講義と演習 (高芝潤先生) □		
テキスト/参考文献	老年看護学、老年看護病態・疾患論、リハビリテーション看護 (医学書院) 生活機能からみた 老年看護過程＋病態・生活機能関連図 山田律子編集 第2版 (医学書院)／老年看護学 概論と看護の実践 第4版 奥野 茂代・大西 和子編集 (ヌーヴェルヒロカワ) 老年看護学概論・老年看護学技術 正木 治恵 真田 弘美編集 (南江堂) 高齢者の看護技術 大塚真理子編著 (医歯薬出版)		
評価の方法や基準	出席状況、筆記試験、学習態度等を総合して評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、高齢者の生活機能面に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	老年期にある対象者の老化による身体的・精神的・社会的変化、特徴的な疾患と看護など復習しながら、授業に臨むこと。 授業中は私語をせず、提出物は期日に提出する。演習中は積極的に参加する。		

授業科目	老年看護方法論Ⅲ	単位／時間	1 / 15時間
開講学科等	看護学科	担当教員	上島 やよい
授業の目的・テーマ	高齢者の生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	高齢者の生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を理解する。		
授業の計画	1	看護過程の展開について (上島)	26
	2	〃	27
	3	生活行動モデル 生活行動情報	28
	4	病態・生活機能関連図	29
	5	目標志向型思考の「看護の焦点」の考え方	30
	6	演習	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	〃	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	〃	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・グループ/個人ワーク		
テキスト/参考文献	老年看護学、老年看護病態・疾患論、リハビリテーション看護 (医学書院) 生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図 山田律子編集 第2版 (医学書院) / 老年看護学 概論と看護の実践 第4版 奥野 茂代・大西 和子編集 (ヌーヴェルヒロカワ) 老年看護学概論・老年看護学技術 正木 治恵 真田 弘美編集 (南江堂) 高齢者の看護技術 大塚真理子編著 (医歯薬出版)		
評価の方法や基準	出席状況、筆記試験、学習態度、記録等を総合して評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、高齢者の生活機能面に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	老年期にある対象の老化による身体的・精神的・社会的変化、特徴的な疾患と看護など復習しながら、授業に臨むこと。 授業中は私語をせず、提出物は期日に提出する。演習中は積極的に参加する。		

授業科目	小児看護学概論	単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	前田 さち・寺村 妙
授業の目的・テーマ	1. 小児看護の特徴と看護の役割について理解できる。 2. 小児と小児をとりまく環境と成長発達について理解できる。		
授業の到達目標	「授業の目的・テーマ」に記載した内容を目標に、授業を進める。		
授業の計画	1	小児看護の特徴と理念 (寺村)	26 //
	2	小児と家族の諸統計	27 //
	3	小児看護の変遷	28 子どもと家族を取り巻く社会
	4	小児看護における倫理 今後の課題	29 学校保健 病児保育
	5	子どもの成長・発達	30 試験
	6	成長発達の進み方 成長の評価	31
	7	乳児期	32
	8	//	33
	9	//	34
	10	幼児期	35
	11	//	36
	12	//	37
	13	学童期	38
	14	思春期・青年期	39
	15	子どもの状況に特徴づけられる看護 (寺村)	40
	16	//	41
	17	家族の特徴とアセスメント	42
	18	子どものアセスメント	43
	19	//	44
	20	//	45
	21	//	46
	22	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (寺村)	47
	23	//	48
	24	子どもにおける疾病の経過と看護	49
	25	//	50
授業の方法	講義 グループワーク 演習		
テキスト/参考文献	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院)		
評価の方法や基準	筆記試験 等、総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護学概論に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」について、よく理解しておくこと。		

授業科目	母性看護学概論	単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	森木 由美子
授業の目的・テーマ	母性各期の対象の特徴および人間の性と生殖の意義について理解できる。		
授業の到達目標	上記「授業の目的」の内容を到達目標とする。		
授業の計画	1	1. 母性看護の基盤となる概念 (1) 母性とは	26 (4) 人工妊娠中絶と看護
	2	(2) 母性の身体、心理、社会的特徴	27 (5) 喫煙女性の健康と看護
	3	(3) 母子関係と家族発達	28 まとめ
	4	(4) セクシュアリティ	29 試験
	5	(5) リプロダクティブヘルス／ライツ	30 試験
	6	(6) ヘルスプロモーション	31
	7	(7) 母性看護のあり方	32
	8	(8) 母性看護における倫理、安全・事故予防	33
	9	(9) 母性看護に関する組織と法律	34
	10	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (1) 母子保健統計の動向	35
	11	(2) 母子保健に関する施策	36
	12	(3) 母性看護の対象を取り巻く環境、母子健康手帳	37
	13	〃	38
	14	3. 母性看護の対象理解	39
	15	〃	40
	16	〃	41
	17	4. 女性のライフステージ各期における看護	42
	18	(1) 思春期の健康と看護	43
	19	(2) 成熟期の健康と看護	44
	20	〃	45
	21	(3) 更年期の健康と看護	46
	22	5. リプロダクティブヘルスケア	47
	23	(1) 家族計画	48
	24	(2) 性感染症とその予防	49
	25	(3) HIVに感染した女性に対する看護	50
授業の方法	講義 グループワーク		
テキスト/参考文献	母性看護学〔1〕母性看護学概論 (医学書院) / 適宜紹介します		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護学概論に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	総合評価について了解しておくこと。		

授業科目	母性看護方法論Ⅰ		単位／時間	1／30時間
開講学科等	看護学科		担当教員	畠中 ゆかり・森木 由美子
授業の目的・テーマ	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児の生理的変化と正常な経過を理解し、必要な援助および保健指導について理解できる。			
授業の到達目標	上記「授業の目的」の内容を到達目標とする。			
授業の計画	1	妊娠期における看護 (森木)	26	新生児の看護 (畠中)
	2	①妊娠期の身体的特性	27	①新生児の生理
	3	〃	28	②新生児のアセスメント
	4	②妊娠期の心理・社会的特性	29	③新生児の看護
	5	〃	30	試験
	6	③妊婦と胎児のアセスメント	31	
	7	〃	32	
	8	④妊婦と家族の看護	33	
	9	〃	34	
	10	⑤親になるための準備教育	35	
	11	分娩期における看護	36	
	12	①分娩の要素	37	
	13	②分娩の経過	38	
	14	③産婦・胎児、家族のアセスメント	39	
	15	④産婦と家族の看護	40	
	16	産褥期における看護	41	
	17	①産褥経過	42	
	18	〃	43	
	19	②褥婦のアセスメント	44	
	20	〃	45	
	21	ウェルネス看護診断にもとづく看護過程	46	
	22	〃 (畠中)	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）／母性看護技術（メディカ出版） ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程（医歯薬出版）			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護援助論（正常編）に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	総合評価について了解しておくこと。			

授業科目	精神看護学概論	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	笹山 淳子
授業の目的・テーマ	精神保健医療の変遷と現状を学び、精神障害を持つ対象の人権や保健福祉について考える。また、精神の成り立ちとメカニズムを知り、ライフサイクルにおける精神保健について理解できる。		
授業の到達目標	精神保健医療の変遷と現状を学び、精神障害を持つ対象の人権や保健福祉について考える。また、精神の成り立ちとメカニズムを知り、ライフサイクルにおける精神保健について学ぶ。		
授業の計画	1	精神看護学で学ぶこと（第1章）	26
	2	〃	27
	3	精神保健の考え方（第2章）	28
	4	〃	29
	5	〃	30
	6	〃	31
	7	心のはたらきと人格形成（第3章）	32
	8	〃	33
	9	〃	34
	10	関係のなかの人間（第4章）	35
	11	〃	36
	12	社会のなかの精神障害（第7章）	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義・ディスカッション		
テキスト/参考文献	精神看護学〔1〕精神看護の基礎 精神看護学〔2〕精神看護の展開（医学書院）／適宜紹介します		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	特になし。		

授業科目	精神看護方法論Ⅰ		単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	坂本 寛子
授業の目的 ・テーマ	精神疾患の病態と治療について学ぶ。			
授業の 到達目標	精神疾患の病態と治療について理解する。			
授業 の 計 画	1	第5章 精神科疾患のあらわれ方	16	
	2	A) 精神を病むことと生きること	17	
	3	B) 精神症状論と状態像	18	
	4		19	
	5		20	
	6		21	
	7	C) 精神障害の診断と分類	22	
	8		23	
	9		24	
	10	第6章 精神科での治療 A) 精神科における治療 B) 精神療法 C) 薬物療法 D) 電気けいれん療法その他 E) 環境療法・社会療法	25	
	11		26	
	12		27	
	13		28	
	14		29	
	15	試験	30	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	精神看護学〔1〕精神看護の基礎 精神看護学〔2〕精神看護の展開 (医学書院) / 適宜紹介します			
評価の方法 や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の 活かし方				
履修上の 注意事項	特になし。			

授業科目		精神看護方法論Ⅱ		単位／時間		1／30時間	
開講学科等		看護学科		担当教員		下司 政代・塩見 理香	
授業の目的・テーマ		精神障害を持つ対象と家族の生活を理解でき、また、その対象に対する基本的援助技術を理解できる。					
授業の到達目標		精神障害を持つ対象と家族の生活を考え、また、その対象に対する基本的援助技術を学習する。					
授業の計画	1	第9章 回復を助ける (下司)	26	セルフケア理論による患者理解と看護			
	2	A) 回復の意味	27	〃			
	3	B) リカバリーのビジョン	28	〃			
	4	C) 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点	29	試験			
	5	D) リカバリーを促す環境	30	〃			
	6	E) リカバリーを促す方法としてのグループ	31				
	7	F) さまざまな回復のためのプログラム	32				
	8	G) リカバリーのプロセス	33				
	9	第10章 地域における精神保健と精神看護 (塩見)	34				
	10	A) 「器」としての地域 B) 地域における生活支援の方法	35				
	11	C) 地域におけるケアの方法と実際	36				
	12	E) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	37				
	13	第13章 安全を守る (下司)	38				
	14	A) リスクマネジメントの考え方と方法	39				
	15	B) 緊急事態に対処する	40				
	16	C) 緊急事態とスタッフの支援	41				
	17	〃	42				
	18	〃	43				
	19	第10章 D) 学校におけるメンタルヘルス (塩見) 第14章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護	44				
	20	第15章 災害時のメンタルヘルスと看護 (塩見)	45				
	21	第16章 看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス	46				
	22	〃 (下司)	47				
	23	セルフケア理論とは (塩見)	48				
	24	〃	49				
	25	〃	50				
授業の方法		講義・ディスカッション・ロールプレイ					
テキスト/参考文献		精神看護学〔1〕精神看護の基礎 精神看護学〔2〕精神看護の展開 (医学書院)／適宜紹介します					
評価の方法や基準		筆記試験等総合評価					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		特になし					

授業科目	精神看護方法論Ⅲ		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	和田 恵
授業の目的・テーマ	精神障害を持つ対象に対する基本的援助技術を理解でき、セルフケア理論による看護過程の展開について学び、実際に看護過程の展開方法を理解する。			
授業の到達目標	上記援助技術と看護過程の展開方法を理解する。			
授業の計画	1	第11章 入院治療の意味	26	看護過程 演習
	2	A. 精神科を受診すること	27	〃
	3	B. 治療の器としての病院・病棟	28	〃
	4	C. 入院中の観察とアセスメント	29	試験
	5	D. ケアの方向性を考える E. 退院に向けての支援とその実際	30	〃
	6	第12章 身体をケアする	31	
	7	A. 精神科における身体のケア	32	
	8	B. 精神科における身体を通した看護ケアの実際	33	
	9	C. 精神科の治療に伴う身体のケア	34	
	10	D. 身体合併症のアセスメントとケア	35	
	11	E. 精神科における終末期ケア	36	
	12	〃 (統合失調症)	37	
	13	〃	38	
	14	〃 (発達障害)	39	
	15	〃	40	
	16	〃 (気分障害)	41	
	17	〃 (アルコール依存症)	42	
	18	〃 (強迫性障害)	43	
	19	〃 (摂食障害)	44	
	20	第8章 ケアの人間関係	45	
	21	〃	46	
	22	プロセスレコード	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義・グループワーク			
テキスト/参考文献	精神看護学〔1〕精神看護の基礎 精神看護学〔2〕精神看護の展開 (医学書院) / 適宜紹介します。			
評価の方法や基準	筆記試験 記録・レポート等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、精神看護に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄の内容を理解しておくこと			

授業科目	成人・老年看護学実習（急性期・回復期）		単位／時間	3／120時間
開講学科等	看護学科		担当教員	池田 久美子 他
授業の目的・テーマ	急性期・回復期にある患者の特徴と治療・療養上の問題を総合的にとらえ、適切な看護を提供できる知識・技術・態度を習得する。			
授業の到達目標	下記に記載.			
授業の計画	1	実習目標 1. 急性期・回復期の対象者の身体的側面を理解する。 2. 急性期・回復期の対象者と家族を精神的・社会的側面から理解する。 3. 心身ともに最良の状態で治療が受けられる援助が理解できる。 4. 身体の問題を明確にし、回復に向けての援助ができる。 5. 事故防止と安全を考慮して援助ができる。 6. 保健・医療・福祉チームとの協同と連携を理解する。	26	目標に向けて、120時間、下記医療機関で実習を行う。
	2		27	
	3		28	
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
授業の方法	臨地実習 高知赤十字病院、高知医療センター			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	実習内容、出席、提出物等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護学（急性期・回復期）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。			
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄の内容をよく理解しておくこと。			

授業科目	成人・老年看護学実習（慢性期 終末期）		単位／時間	3／120時間
開講学科等	看護学科		担当教員	竹澤 睦子 他
授業の目的・テーマ	成人期の慢性期・終末期にある患者の特徴と治療・療養上の問題を総合的にとらえ、適切な看護を提供できる知識・技術・態度を習得する。			
授業の到達目標	下記に記載			
授業の計画	1	実習目標	26	目標に向けて、120時間、下記医療機関で実習を行う。
	2	1) 慢性期・終末期にある対象者の身体的側面を理解する。	27	
	3		28	
	4	2) 慢性期・終末期にある対象者を精神・社会的側面から理解する。		
	5			
	6	3) 慢性期・終末期にある対象者をもつ家族を精神的・社会的側面から理解する。		
	7			
	8	4) 慢性期・終末期にある対象者の看護上の問題を明確にし、QOLをふまえた援助ができる。		
	9			
	10	5) 慢性期・終末期にある対象者をもつ家族の看護上の問題を明確にし、援助ができる。		
	11			
	12	6) 終末期にある対象者の看護をととして自己の死生観を深めることができる。		
	13			
	14	7) 終末期にある対象者の看護をととして自己の看護観を深めることができる。		
	15			
	16	8) 看護の役割を理解し、倫理に基づいた言動がとれる。		
	17			
	18			
	19	内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
授業の方法	臨地実習 高知赤十字病院、高知医療センター			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	実習内容、出席、提出物等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護学（慢性期 終末期）に関する基本的知識を実践を通して指導を行う。			
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄の内容をよく理解しておくこと。			

授業科目		地域の学習Ⅱ	単位／時間	1／40時間
開講学科等		看護学科2年	担当教員	下村 美佳子
授業の目的・テーマ		地域の生活環境がそこで生活している人々の健康に与える影響を知り、健康と暮らしを支える看護を学ぶ。		
授業の到達目標		下記に記載		
授業の計画	2	＜社会福祉協議会実習目標＞		
	4	1. 地域における健康管理支援を理解する。		
	6	1) 社会福祉協議会の機能を知る。		
	8	2) 社会福祉協議会の事業を知る。		
	10	2. 地域における社会福祉協議会の意義・役割を理解する。		
	12	1) 社会福祉協議会の意義・役割を知る。		
	14	3. 地域保健活動の実際を理解する。		
	16	1) 地域における健康問題を把握する。		
	18	2) 地域における健康管理の実際を把握する。		
	20	＜地域包括支援センター実習目標＞		
	22	1. 地域包括支援センターの意義を知る。		
	24	1) 地域包括支援センターの意義について述べることができる。		
	26	2) 地域包括支援センターの活動内容を述べることができる。		
	28	3) 地域包括支援の対象者の状況を把握することができる。		
	30	4) 地域包括支援センターの対象者とその利用状況を把握することができる。		
	32	2. 対象者の家族、他職種との連携の実際を知り、看護の役割を理解する。		
	34	1) 対象者の地域包括支援センターの利用状況を把握することができる。		
	36	2) 多職種との連携の実際を述べることができる。		
	38	3) 地域包括支援センターにおける看護師の役割について述べることができる。		
	40	〃		
授業の方法		臨地実習		
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準		提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験		医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方		看護師業務に携わった経験を持つ教員が、基礎看護学実習（看護過程の基礎）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。		
履修上の注意事項		準備・課題などを計画的に進めていくこと。		

授業科目		老年看護学実習	単位／時間	2／80時間
開講学科等		看護学科	担当教員	南場 香
授業の目的・テーマ		老年期にある対象の特徴と健康上の問題を総合的に捉え、老年期の対象とその家族を支援する看護を学ぶ。		
授業の到達目標		下記に記載		
授業の計画	1	実習目標	51	目標に向けて、80時間、下記医療機関で実習を行う。
	3	1) 老年期にある対象の特徴を理解する。	53	
	5		55	
	7	2) 老年期にある対象の老化と健康障害から生じる問題を考え、援助計画が立案できる。	57	
	9		59	
	11	3) 老年期にある対象の特徴をふまえた日常生活の援助ができる。	61	
	13		63	
	15	4) 老年期にある対象の家族の援助を理解する。	65	
	17		67	
	19	5) 老年期にある対象の生活を支援する社会資源の活用を理解する。	69	
	21		71	
	23	6) 看護者として必要な倫理について理解する。	73	
	25		75	
	27	内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。	77	
	29		79	
	31		81	
	33		83	
	35		85	
	37		87	
	39		89	
	41		90	
	43			
	45			
	47			
	49			
授業の方法		臨地実習 介護医療院、老健・特養・グループホーム など		
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準		実習内容、出席、提出物等を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験		医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方		看護師業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護学(基礎)に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。		
履修上の注意事項		上記「評価の方法や基準」欄の内容をよく理解しておくこと。		

授業科目	精神看護学実習	単位／時間	2／80時間
開講学科等	看護学科	担当教員	笹山 淳子 他
授業の目的・テーマ	精神障害を持つ対象の特徴と健康上の問題を総合的に捉え、対象にとって必要かつ適切な看護を提供できる知識・技術・姿勢を習得する。		
授業の到達目標	下記に記載		
授業の計画	1	実習目標	51
	3	1) 精神障害を持つ対象の特徴を理解する。	53
	5		55
	7	2) 精神障害を持つ対象の家族を精神的・社会的側面から理解する。	57
	9		59
	11	3) 精神障害を持つ対象の個別性を踏まえた看護過程の展開ができる。	61
	13		63
	15	4) 精神障害を持つ対象と自己との相互作用を体験し、その関わりを理解した上で、治療効果を高めるための援助ができる。	65
	17		67
	19	5) 精神科医療における看護と他職種との連携の重要性を理解する。	69
	21		71
	23	6) 看護者として必要な倫理的義務や責任について理解する。	73
	25		75
	27		77
	29		79
	31	内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。	81
	33		83
	35		85
	37		87
	39		89
	41		90
	43		
	45		
	47		
	49		
授業の方法	臨地実習 高知鏡川病院・細木病院・愛幸病院・愛宕病院・南国病院		
テキスト/参考文献			
評価の方法や基準	実習内容、出席、提出物等を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、精神看護学に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う		
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄の内容をよく理解しておくこと。		

授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ		単位／時間	1／30時間
開講学科等	看護学科		担当教員	下村 美佳子・竹内 初衣
授業の目的・テーマ	1. 地域に暮らす人々の看護は看護の土台であることを認識でき、暮らしが健康に与える影響を理解することができる。 2. 看護が提供される多様な場を知り、健康と暮らしを支える看護の役割について理解することができる。 3. 地域・在宅看護に関連する法・制度・施策を理解する。 4. 地域・在宅看護過程の展開方法を理解し、地域・在宅看護実践における多職種連携・協働について学ぶ。 5. 地域・在宅看護活動の創造について考えることができる。			
授業の到達目標	1. 地域に暮らす人々の看護は看護の土台であることを認識でき、暮らしが健康に与える影響を説明できる。 2. 看護が提供される多様な場を知り、健康と暮らしを支える看護の役割について述べることができる。 3. 地域・在宅看護に関する法・制度・施策について述べるができる。 4. 地域・在宅看護過程の展開方法を理解し、地域・在宅看護実践における多職種連携・協働について述べるができる。 5. 地域・在宅看護活動の創造について考えることができる。			
授業の計画	1	暮らしを支える看護Ⅰガイダンス	26	B 地域・在宅看護の展開方法
	2	序章 地域の中での暮らしと健康・看護	27	グループワーク
	3	第1章 地域のなかでの暮らしと健康・看護	28	〃
	4	第2章 暮らしの基盤としての地域の理解	29	〃
	5	第3章 地域・在宅看護の対象	30	試験
	6	〃	31	
	7	第4章 地域における暮らしを支える看護	32	
	8	〃	33	
	9	第5章 地域・在宅看護の実践の場との連携	34	
	10	〃	35	
	11	第6章 地域・在宅に関わる制度とその活用	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	第7章 地域・在宅看護活動の創造と展開例	39	
	15	地域包括支援センターについて（外部講師）	40	
	16		41	
	17	社会福祉協議会について（外部講師）	42	
	18		43	
	19	在宅看護論実習まとめの会参加	44	
	20	試験	45	
	21	序章 地域・在宅看護の実践	46	
	22	第1章 地域在宅看護の展開		
	23	A 地域・在宅看護における看護過程		
	24	〃		
	25	〃		
授業の方法	講義・演習			
テキスト/参考文献	地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤，地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	特になし			

授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ		単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	笹山 淳子・竹澤 睦子
授業の目的・テーマ	1. 健康の保持増進を支援する看護の理論を理解し活用できる。 2. 健康レベルに応じた看護の場の移行に伴う看護について学習し、継続看護の意義や方法について学習する。			
授業の到達目標	1. 健康の保持増進を支援する看護の理論を理解できる。 2. 健康レベルに応じた看護の場の移行に伴う看護とその継続看護の意義や方法について理解できる。			
授業の計画	1	1. 健康の保持増進・疾病の予防に関する看護	26	
	2	・ハイリスクアプローチ(生活習慣予防、介護予防)	27	
	3	・健康行動理論の活用・セルフケア理論の活用	28	
	4	〃	29	
	5	〃	30	
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	2. 介入時期と看護の継続性	33	
	9	・治療の場から在宅への移行期	34	
	10	・在宅療養の安定期・在宅リハビリテーション期	35	
	11	・急性増悪期・終末期・グリーフケア	36	
	12	・継続看護の意義と方法	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義 グループワーク 演習 体験学習			
テキスト/参考文献	在宅看護論 (医学書院)			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療・在宅現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護技術に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項	総合評価について事前に理解しておくこと。			

授業科目	看護研究	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	高橋 永子
授業の目的・テーマ	看護研究の基礎を理解するとともに研究的態度を学ぶ。		
授業の到達目標	看護研究の基礎を理解するとともに研究的態度を修得する。		
授業の計画	1	看護研究の目的と意義 看護学会および学術集会の現況	26
	2	テーマの見つけ方・絞り方	27
	3	看護研究のプロセス・概念枠組	28
	4	文献検索の意義と方法	29
	5	文献検索の実際	30
	6	文献検討の意義と方法 (文献整理・文献カードの記載)	31
	7	文献検討 (個人関心のある文献)	32
	8	文献検討(個人発表)	33
	9	看護研究の種類・方法の特徴	34
	10	質的研究／文献クリティーク	35
	11	量的研究／文献クリティーク	36
	12	看護研究における倫理的配慮	37
	13	研究計画書の構成	38
	14	研究計画書の作成 (GW)	39
	15	研究計画書の発表 (グループ単位)	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループワーク 個人ワーク		
テキスト/参考文献	看護研究 (医学書院) 黒田裕子の看護研究step by step第5版(医学書院) / 看護学生のためのわかりやすいケース・スタディの進め方 (照林社) かんたん看護研究(南江堂) 看護における研究 第2版(日本看護協会出版会)		
評価の方法や基準	試験、課題等提出内容、グループワークの参加状況で評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	看護研究を実践		
実務経験の活かし方	看護研究を実践経験を活かし、基礎学者に分かりやすい研究への望み方を講義する。		
履修上の注意事項	出席状況および授業中の態度や演習に取り組む姿勢も評価対象とする。		

授業科目	家族看護学		単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科		担当教員	松下 由香
授業の目的 ・テーマ	人が生きていくうえでの基盤ともなる家族についての理解を深め、家族を支援する看護を考えることができる。			
授業の 到達目標	現代の家族とその在り方について理解する。家族を含めた対象の理解とその支援する看護について理解ができる。			
授 業 の 計 画	1	家族看護とは	26	
	2	〃	27	
	3	家族看護の対象理解	28	
	4	〃	29	
	5	家族看護を支える理論と介入法	30	
	6	〃	31	
	7	家族看護の展開の方法	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	家族看護学の実践	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義 グループワーク			
テキスト/参考文献	系統看護学講座 家族看護学 (医学書院)			
評価の方法 や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の 活かし方				
履修上の 注意事項	総合評価についてよく理解しておくこと。			